

言なり、素問難經にいはざる所、何ぞ信するに足んやといへり。又曰、諸の禁忌、たゞ四季の忌む所、素間に合ふに似たり、春は左の脇、夏は右の脇、秋は臍、冬は腰是也。聚英に所言かくの如し、まことに禁灸の日多き事信じがたし。今の人只血忌日と、男子は除の日、女子は破の日を忌む。是亦いまだ信すべからずといへ共、亥ばらく舊説と時俗に亥たがふのみ、凡術者の言逐一に信じがたし。
〔本朝灸談〕今人灸治するに、とし日血忌を改め正すまでにて、人神の所在は擇ばず、醫師もおろそかにして語らず、昔人詳に考たるなり。

〔藥徵〕中艾○中辨誤

灸家言禁穴頗多、余東洞吉益家不言之。一從靈樞以結毒爲輪也。大凡灸不止一日乃至五日、七日、以多日爲有効矣。一日暴之、十日寒之、我未見其能治者也。

〔皇國名醫傳後編上〕古林見宜古林見桃

古林正溫、通稱見宜。○中正溫術綜諸科、不擇大小男女、喜用灸炳、亦時以毫鍼刺榮俞、或問灸有禁穴忌日、然乎、正溫答曰、元日不可灸、眼睛不可灸、不知其他。

〔嬉遊笑覽〕寶曆十三年、灸治を忌日とて、長崎にて試し人有しとて、賣歩者有しが、今も人々是を寫し、壁に張立て、何の年のは何月何日を忌とて信用す、これ皆據なき浮説なり、其中に已の年のは、忌日なく、年中よしとあるは、當時上様已の御年にわたらせ給へば、かやうに言出しものなりと或人いへり。

〔續古事談〕五道富家殿忠實藤原灸治シ給ケルニ、重康申サク、日神モ、ニアリ、ヤキ給ベカラズ、コノカミ、忠康申サク、内モ、外モ、コトナリ、醫書明堂圖ニ見エタリ、外モ、ハマカルベシ、玉篇切韻マコトニ、忠康ガ申ガゴトシ、コレニヨリテ、重康ヲメサズ忠康ヤキタテマツル、兄弟中アシクシテ、ツ子ニカ、ル事アリケリ、忠康ハ、雅忠ガ實子ニハアラズ、上野守良基ガ子也、雅忠オサナクヨ